大裂傷

使用器具

大きく裂けて出血している傷口。これを放っておくとバイタルがどんどん低下していくので、発見したら最優先で処置すること。まずは血だまりを吸引し、傷口を露出させる。そのままでは傷の幅が広すぎて縫合できないため、次にピンセットで皮膚をつかんで、傷を閉じるという処置を行なう。閉じたあとは出血線・大と同様に、ジグザグに縫合すれば術式完了だ。なお、ピンセットで傷をつかんで閉じるときに、時間をかけすぎると血だまりがふたたび発生し、縫合の際も一定時間で傷口が開いていく。それぞれをすばやく行ないたいが、いずれかの手順で一度でも失敗すると、*Cool*評価は獲得できない。ここは処置の正確さに重点を置くべきである。

評価・判定ポイント

- 血だまりの復活なし
- 傷を狭めるときにミスなし
- 傷が再び開くまえに縫合
- 縫合線の長さ、幅、中心位置、傷に対する角度が正確
- 折り返し回数が規定数以上ある

❷ピンセット
FORCEPS
ピンセットへ切り替えて傷の端をつかみ、閉じる。このとき*Ok*と表示されるまでは離さないこと。

●大裂傷の手順

❶ ドレーン………血を吸い取る
❷ ピンセット……傷を狭める
❸ 針と糸　………傷を縫う

僧帽弁

使用器具

左心房と左心室のあいだにある僧帽弁が機能せず血液が逆流している症例で、人口弁との交換が手術要項となる。心停止の恐れからすばやい処置を行ないたくなるが、その結果、血だまりの再発や切開のやり直しといった失敗をしては意味がない。右の評価・判定ポイントを参考に、ひとつひとつの手順をミスなく執刀することが、結局は時間短縮につながる。

評価・判定ポイント

- 血だまりの復活なし
- 切開時にやり直しなし
- 摘出時にミスなし
- 人口弁設置時にミスなし
- 縫合線の長さ、幅、中心位置、傷に対する角度が正確
- 折り返し回数が規定数以上ある

❷メス
SCALPEL
僧帽弁の切開は左半円→右半円→全体の3工程。これをミスなく行なえば、出血するまえに切り取れる。

●僧帽弁の手順

❶ ドレーン………血だまりを吸引
❷ メス……………弁の左側を切開
❸ メス……………弁の右側を切開
❹ メス……………弁の周囲を切開
❺ ピンセット……切開した弁を摘出
❻ ドレーン………血だまりを吸引
❼ ピンセット……切開痕に人口弁を設置
❽ 針と糸　………設置した人口弁を縫合

特殊腫瘍

使用器具

大腸内に発生した特殊な腫瘍の摘出術式。その手順は、ドレーンで組織液を吸引後、腫瘍を支えている3本の血管をメスで切除し、ピンセットで腫瘍を回収するというもので、とくに複雑な術式ではない。ただし、特殊腫瘍が複数存在する場合、腫瘍をひとつずつ処置していると、最初の1個をトレイに運んだ直後から、一定時間経過でそれまで摘出した患部にふたたび腫瘍が出現してしまう。その場合は、それぞれの腫瘍に対して組織液の吸引と血管の切除を施してから、まとめて摘出を行なうといった手順で対処しよう。なお、特殊腫瘍は、その周囲に小腫瘍も発生させる。腫瘍への処置をしつつ、小腫瘍の焼却も同時に行なっていこう。

❶ドレーン
DRAIN
*Ok*と表示されるまで吸引。なお、通常の腫瘍と違って吸引後の時間経過による組織液の復活はない。

❷メス
SCALPEL
メスを血管に合わせてⒶまたはⒷボタンを押し続ける。3本のうちどれから切除してもかまわない。

❸ピンセット
FORCEPS
摘出は慎重に。腫瘍が複数ある場合は、失敗を繰り返すと復活されて大きなタイムロスになる。

●特殊腫瘍の手順

❶ ドレーン………組織液を吸引
❷ メス……………3本の血管を切断
❸ ピンセット……腫瘍を摘出

肺水腫

使用器具

血液の液体成分が血管の外へしみ出す症状。肺内にその液体成分がたまると低酸素血症となり、呼吸困難を引き起こすので、胸部にたまった水をドレーンで吸引することで処置しよう。なお、肺水腫は飛行中の航空機内での執刀になる。エコー探知、メス、胸水の吸引、ヒールゼリーの手順で処置するが、機体が大きく揺れている際に、それらの処置を強行すると患部に裂傷を作ってしまう。また、胸水を吸引するまえに揺れが発生すると、切開痕のまわりに炎症を併発するため、余計な処置が増えるのも注意すべき点だ。揺れの兆候が現われたら、すべての処置をすみやかに中断しよう。

評価・判定ポイント

- スキャナで影を表示せずに正確な位置で患部を切開
- 炎症を発生させない

❶スキャナ(エコー)
ULTRASOUND
エコーを使わずに対処すると*Cool*が取れるが、難易度が高すぎる。初診の場合は*Bad*でよしとすべし。

❸ドレーン
DRAIN
炎症を発生させてしまうとそれだけで*Bad*確定。揺れるまえに胸水の吸引まではすませておくこと。

●肺水腫の手順

❶ スキャナ………エコー機能で液孔の場所を特定
❷ メス……………液孔表面の患部を切開
❸ ドレーン………胸水を吸引
❹ ヒールゼリー…切り傷を治療